

## 2022 年 10 月における評価方法の変更概要

評価方法を次の通り変更しました。

### <全般>

1. 2022 年 10 月から施行される新しい建築物エネルギー消費性能誘導基準(建築物省エネ法)、建築物の低炭素化誘導基準(エコまち法)に対応するため、計算方法を変更しました。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。

- 技術情報の第二章「住宅部分の一次エネルギー消費量」第一節「全般」
- 技術情報の第二章「住宅部分の一次エネルギー消費量」第二節「設計一次エネルギー消費量」
- 技術情報の第二章「住宅部分の一次エネルギー消費量」第三節「基準一次エネルギー消費量」
- 技術情報の第二章「住宅部分の一次エネルギー消費量」第四節「BEI」

なお、2022 年 9 月まで次のタイトルで公開した技術資料は、その内容を関連する他の章節に転載し、公開を終了しました。

- 技術情報の第二章「住宅部分の一次エネルギー消費量」第四節「特定建築主基準」
- 技術情報の第二章「住宅部分の一次エネルギー消費量」第五節「気候風土適応住宅」
- 技術情報の第二章「住宅部分の一次エネルギー消費量」第六節「長屋又は共同住宅の一次エネルギー消費量」
- 技術情報の第二章「住宅部分の一次エネルギー消費量」第八節「低炭素建築物の認定基準」

2. 複合建築物において住宅部分と非住宅部分とで共有する設備機器の設計一次エネルギー消費量の算定に係る設定に関して、次の技術資料等を公開しました。

- 技術情報の第二章「住宅部分の一次エネルギー消費量」第二節「設計一次エネルギー消費量」

### <共同住宅>

3. 次の技術資料等の公開を終了しました。

- Excel ツール「フロア入力法用一次エネルギー消費量の集計及び評価シート」

- 資料「共同住宅フロア入力法の計算フロー」
- 資料「共同住宅フロア入力法計算プログラム 入力の解説」

#### <外皮>

4. 日よけの日射遮蔽効果の評価方法を変更しました。当該変更の前後で評価結果が変わる場合があります。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。
  - 技術情報の第三章「暖冷房負荷と外皮性能」第四節「日射熱取得率」付録 B「大部分が透明材料で構成されている開口部(窓等)における取得日射熱補正係数」
5. 当該住戸の外皮の部位の面積等を用いずに外皮性能を評価する方法において、浴室の床の温度差係数と、その他の床の温度差係数の設定方法を変更しました。当該変更の前後で評価結果が変わる場合があります。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。
  - 技術情報の第三章「暖冷房負荷と外皮性能」第二節「外皮性能」
6. 土間床等の外周部の線熱貫流率の計算方法において、断熱材に関する適用範囲を追加しました。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。
  - 技術情報の任意評定に係る算定方法等「定常二次元計算による土間床等の外周部の基礎の線熱貫流率の算定方法」

#### <暖冷房設備>

7. 温水床暖房とエアコンディショナーを併用する場合の評価方法を新たに追加しました。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。
  - 技術情報の第四章「暖冷房設備」第七節「温水暖房」
  - 技術情報の第八章「コージェネレーション設備」
8. タンクユニットを有しない電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機(給湯熱源:ガス瞬間式、暖房熱源:電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用)の評価方法を新たに追加しました。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。

- 技術情報の第四章「暖冷房設備」第七節「温水暖房」

<コージェネレーション設備>

9. 排熱を給湯に用いないコージェネレーション設備のリストを更新しました。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。

- 技術情報の第八章「コージェネレーション設備」

以 上

---

※「技術情報」とは、国立研究開発法人 建築研究所が公開する「平成 28 年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報(住宅)現行版」です。  
「資料」、「Excel ツール」および「WEB アプリ」とは、WEB サイト「住宅に関する省エネルギー基準に準拠したプログラム」において公開する入力補助ツール・補足資料です。

## エネルギー消費性能計算プログラム(Ver.3.3.0)における更新の内容

旧バージョン(Ver.3.2.0)からの変更点は、次の通りです。

### ●Ver.3.2.0→Ver.3.3.0(令和4年10月1日)●

#### <全般>

1. 2022年10月に施行される新しい建築物エネルギー消費性能誘導基準（建築物省エネ法）、建築物の低炭素化誘導基準（エコまち法）に対応するため、以下の変更を行いました。
  - 「基準一次エネルギー消費量」の計算方法を変更しました。
  - Web インタフェースの計算結果画面およびPDFファイルの出力項目を変更しました。

#### <外皮>

2. 外皮性能の評価方法において、「当該住戸の外皮面積を用いず外皮性能を評価する（ここで計算）」を選択した場合、以下の入力項目が追加されました。
  - 住戸の種類において、「床断熱住戸」または「床断熱住戸と基礎断熱住戸の併用」を選択した場合、「その他の床の温度差係数」の入力項目が追加されました。
  - 住戸の種類において「床断熱住戸」または「床断熱住戸と基礎断熱住戸の併用」を選択し、かつ浴室の断熱構造において「床断熱」を選択した場合、「浴室の床の温度差係数」の入力項目が追加されました。

#### <暖房>

3. 主たる居室の暖房設備機器または放熱器の種類に、「温水床暖房（併用運転に対応）」が追加されました。

<コージェネ>

4. コージェネレーション設備の仕様に関するパラメータ「PUの日平均排熱効率／係数b」について、画面から入力する場合の最大値を1から1.5に変更しました。

以上

## 住宅・住戸の外皮性能計算プログラム (Ver.3.3.0) における更新の内容

旧バージョン(Ver.3.2.0)からの変更点は、次の通りです。

●Ver.3.2.0→Ver.3.3.0(令和4年10月1日)●

<住宅・住戸の外皮性能の計算プログラム Web アプリケーション>

1. 窓の日射熱補正係数を算出する際に、南東面・南面・南西面以外の窓に対しても、南東面・南面・南西面の窓に対する式を適用していたプログラムの不備を修正しました。

以上

共同住宅フロア入力法計算プログラム(Ver.3.3.0)における更新の内容

旧バージョン(Ver.3.2.0)からの変更点はありません。

以上

## 日よけ効果係数算出ツール(Ver.3.3.0)における更新の内容

旧バージョン(Ver.3.2.0)からの変更点は、次の通りです。

### ●Ver.3.2.0→Ver.3.3.0(令和4年10月1日)●

1. 日よけの日射遮蔽効果の評価ルールの変更に伴い、日よけの形状の選択肢および寸法の入力方法を変更しました。
  - 日よけの形状を3パターンから選択していたものを、サイドフィンの評価の有無を選択するように変更しました。
  - x1、x3の寸法を入力する際に「入力しない(規定値を用いる)」が選択できるようになりました。
  - サイドフィンを評価する場合、y1の寸法を入力する際に「入力しない(4m以上の場合)」が選択できるようになりました。
  - Web インタフェースのレイアウトの一部および説明図の変更を行いました。

以上

土間床等の外周部の線熱貫流率の算出プログラム(Ver.3.3.0)における更新の内容

旧バージョン(Ver.3.2.0)からの変更点はありません。

以上

## 共同住宅等の計算結果集計プログラム(Ver.3.3.0)における更新の内容

旧バージョン(Ver.3.2.0)からの変更点は、次の通りです。

### ●Ver.3.2.0→Ver.3.3.0(令和4年10月1日)●

1. 2022年10月に施行される新しい建築物エネルギー消費性能誘導基準(建築物省エネ法)、建築物の低炭素化誘導基準(エコまち法)に対応するため、Web インタフェースの計算結果画面およびPDF ファイルの出力項目を変更しました。
2. 「住戸部分」および「共用部分」で旧バージョンはアップロードできなくなりました。アップロードできるPDF ファイルは以下の通りです。
  - 住戸部分:「一次エネルギー消費量計算結果(住宅版)」現行バージョン
  - 共用部分:「エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)」現行バージョン
3. 一次エネの評価方法で「住戸部分」を選択した場合、共用部分の計算結果PDF のアップロード画面を表示しないように変更しました。
4. Web インタフェースのレイアウトを一部修正しました。

以上